

宮古の風



～ 新しい風は東から ～

子どもたちの学びの在り方が変化すると同時に、教員研修の在り方も変化しています。まさに「学びの相形」であることを実感します。今年度も、研修に参加された先生方には、協議や演習、対話的な学びを多く行っていただきました。研修者の皆さんの積極的な発信と、温かさのある協働によって、スムーズに研修を運営することができました。心から感謝です。
文責：平澤

【今年度の基本研が終了しました】

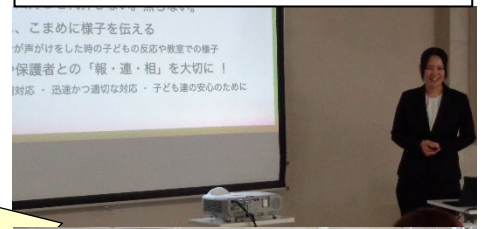
今年度も、皆様のご理解とご協力のおかげで基本研修を計画通り進めることができました。教育事務所実施の基本研修が、研修者の先生方と各学校のニーズに添えるものになるよう、今年度の成果と課題を振り返りながら次年度の計画を立てていきます。

【初任者研修】

一般研修を2回、授業研修を3回実施しました。一般研修の「先輩教員から」では、宮古市立千徳小学校 山崎 寛奈 教諭、宮古市立宮古西中学校 新沼 幸子 教諭から「初任者の先生方に向けてのメッセージ」として、経験談を交えながらお話いただきました。

授業研修では、宮古市立磯鶏小学校 山本 幸子 教諭の「国語」、宮古市立田老第一中学校 高野 里緒 教諭の「道徳」、宮古市立宮古小学校 村上 和也 教諭の「学級活動(1)」の授業を参観し、授業づくりや個に応じた指導の進め方について学ぶことができました。

先輩教員から(上) 演習(下)



一般研修 講義「メンタルヘルス不調の要因と対処」



5年研 その1 協議の様子



中堅研 一般研修 リフレクションの様子



【2年目研修】

一般研修では、宮古保健所 小野寺 純子 主任保健師から「メンタルヘルス不調の要因と対処」について講義いただき、学びを深めることができました。

授業研修では、宮古市立山口小学校 齋藤 康太郎 教諭の「学級活動(3)」の授業参観や、講義・演習を通して「特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」について学びを深めることができました。その中で、特別活動の目的や、子どもの資質・能力を効果的に高める授業について学びました。

【教職経験者5年研修講座】

一般研修では、5年の教職経験を踏まえながら、「復興教育」や「コミュニティ・スクール及び教育振興運動」、「児童生徒のメンタルヘルス」、「自殺予防教育・いじめや不登校対応の組織的な進め方」について、学びを深めました。

授業研修では、田野畑村立田野畑小学校 菊池 祐希 教諭の「学級活動(2)」の授業参観や、道徳教育・道徳科の指導についての講義を通して、実践的な指導力の向上を図ることができました。

【中堅教諭等資質向上研修講座】

一般研修では、「様々な立場の同僚と連携して取り組む学級・学年経営、多様性と包摂性のある学校のあり方」について、講義を通して学ぶことができました。「多様性と包摂性」「人権教育」等、子どもたち一人ひとりが生き生きと学校生活を送るために必要な視点について理解を深めることができました。

公開研究会参加研修では、小・中・高・特支の先生方が集まり、異校種の学びについて交流しました。公開参加での気付きや疑問について話し合い、自身の授業改善の取組について考えを深めることができました。

最後の研修会(自己研修シェアリング)はオンラインで行いました。「自己研修の取組の成果と課題」についてグループで協議し、学びを深めることができました。

復興教育計画のさらなるブラッシュアップを！ (「いわての復興教育」プログラム 第3版より)

今年度、多くの学校に県の復興教育推進事業に取り組んでいただき、その成果として「体験学習を通じた充実した学び」が成果として挙げられました。その一方で、今後の課題として、復興教育において育成を目指す資質・能力の明確化や教職員間の共通理解、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいた復興教育全体計画の見直しの必要性も挙げられました。下記に示す内容は、「いわての復興教育」プログラムに基づいた復興教育計画を作成する上でのチェック項目です。今年度の自校の取組について振り返り、来年度の復興教育全体計画、復興教育年間指導計画を作成する上での参考にしてください。

【チェック項目】(☑できているものにチェックしてみましょう)

① 学校経営への位置付け、組み立て方

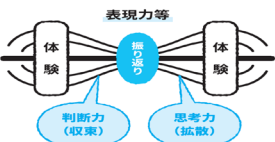


<input type="checkbox"/>	【令和6年度の成果と課題の確認】 設定した重点に照らし合わせて、評価し、改善を図る。どの時期に(単元)に、どれだけの時間を使って、どのような教育活動を展開したか、また、その活動を通して、どの程度まで子どもたちの学びを高めることができたか、成果と課題を確認している。
<input type="checkbox"/>	【学校経営の基本方針への位置付け】 「いわての復興教育」の目的(郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成)に触れている。
<input type="checkbox"/>	【経営の重点への位置付け】 各校が設定した本年度の重点の中に、教育的価値一覧表を参考にしながら、自校の復興教育を位置付けている。
<input type="checkbox"/>	【目指す子どもの姿について、全職員で共通理解】 現在の子どもの実態を踏まえ、復興教育を通して、目指す子どもの姿について確認している。
<input type="checkbox"/>	【「具体的項目」と「教育活動」との結び付け】 具体的21項目と教育活動を結び付け、学校、家庭・地域、関係機関・団体等が一体となった取り組みとなっているか確認している。

② 「いわての復興教育」の大切な視点

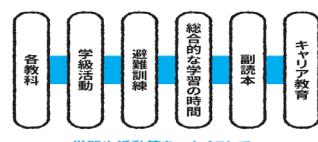
「ひと・もの・こと」との関わりの中から学ぶ

新たな課題に向かって探究していくというプロセスを経ることから、「思考力・判断力・表現力」の育成につながる、日常生活のどんな場面に遭遇しても対応できる対応可能な力となります。



組織的・有機的指導

各学校の教育活動として組織的に取り組むとともに、目標達成に必要な教育内容を教科横断的な視点で有機的に指導する。



<input type="checkbox"/>	【「ひと・もの・こと」との関わりの中から学ぶ】 復興教育推進事業、防災に関する講演会、地域の方との関わり等を意図的に計画し、個人の探究課題の解決等のプロセスを構築できたか確認している。新たな課題に向かって探究していくというプロセスを経て、「思考力・判断力・表現力」の育成につながっているか確認している。
<input type="checkbox"/>	【組織的・有機的指導】 各学校の教育活動として組織的に取り組むとともに、目標達成に必要な教育内容を教科横断的な視点で有機的に指導できているか確認している。(学習や活動等をつなぐことで、復興教育で目指す資質・能力の育成が図られているか確認している。)
<input type="checkbox"/>	【学校の実情に応じた内容】 子どもたちの心身の状態、学校や地域のおかれている状況や環境及びニーズを踏まえ、学校、家庭・地域、関係機関・団体等と連携し、ふるさとへの誇りや愛着を育てる取組が計画されているか確認している。(地域住民とのつながり、地域よさを再発見)

「学校防災アドバイザー派遣事業」・「いわての復興教育サポーター派遣事業」活用を！

学校防災アドバイザー派遣事業は、防災に関する専門家を学校に派遣し、危機管理マニュアルや避難訓練などに対する助言、学校と家庭・地域の連携体制の構築への助言、安全教育のあり方への指導・助言を行うことにより、児童生徒等の安全確保に向けた体制の充実を目的としております。令和6年度は、宮古市立第二中学校が、塚本 清孝氏(地域防災サポーター)を講師として、3学年を対象に避難所運営ゲーム(HUG演習)を、岩泉町立小川中学校が、相馬 求氏(盛岡地方気象台リスクコミュニケーション推進官)を講師として、大雨洪水災害に係る講話・演習を行いました。この他の内容としては、自衛隊による災害時に活用できる技能、図上訓練(DIG)・防災マップづくり等があります。アドバイザー派遣による事業を教育過程上に位置付け、ねらいをもって行うことで、身に付けさせたい資質・能力の育成にもつながります。

また、「いわての復興教育サポーター派遣事業」は、震災当時を知る退職した教職員を、学校のニーズに合わせ、授業や研修会等の講師として派遣することにより、震災の事実と教訓の語り継ぎや伝承活動を推進し、岩手の未来を担う人づくりに資することを目的としており、今年度は宮古市立磯鶏小学校、岩泉町立小川中学校が3月に実施予定です。

是非、来年度の計画に「学校防災アドバイザー派遣事業」・「いわての復興教育サポーター派遣事業」の活用をご検討下さい。

「いわての復興教育」プログラム 第3版
(平成31年3月 岩手県教育委員会)より